



栃木県公共事業事後評価 事後評価書

【県土整備部 道路事業】

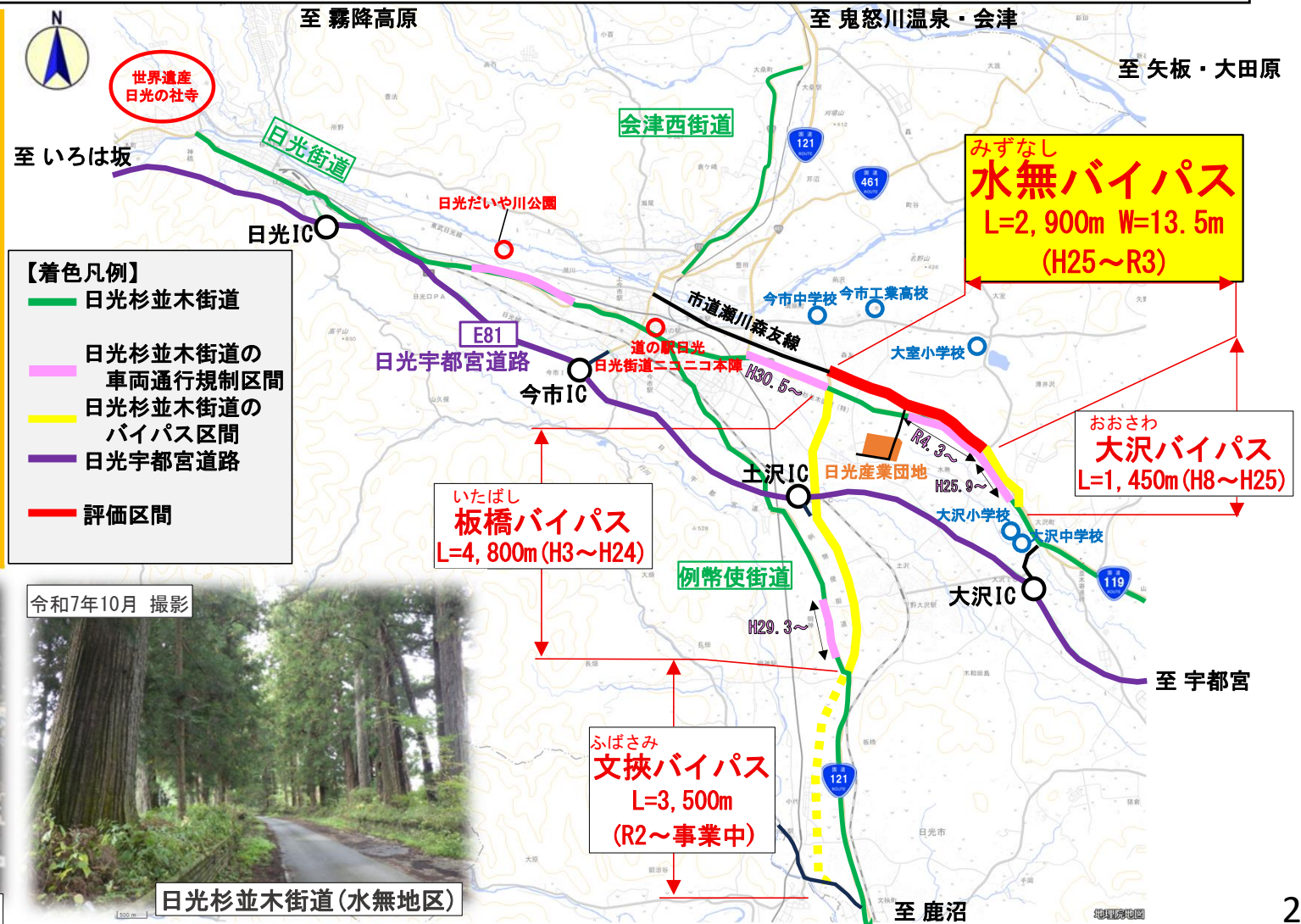
事業名	快適で安全な道づくり事業
事業箇所	一般国道 119 号 ^{みずなし} 水無バイパス 日光市 ^{もりとも} 森友 ~ ^{おおさわ} 大沢町 L=2,900m
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 道路整備課

I 事業の概要

【箇所の概要（1）】

- 一般国道119号は県都宇都宮と国際観光都市日光を結ぶ幹線道路であり、地域生活はもとより物流や観光を支える重要な道路である。
- 現道は、国の特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受けている「日光杉並木街道」であり、貴重な文化遺産を有している。

県内位置図



【箇所概要（2）】

- (v)

I 事業の概要

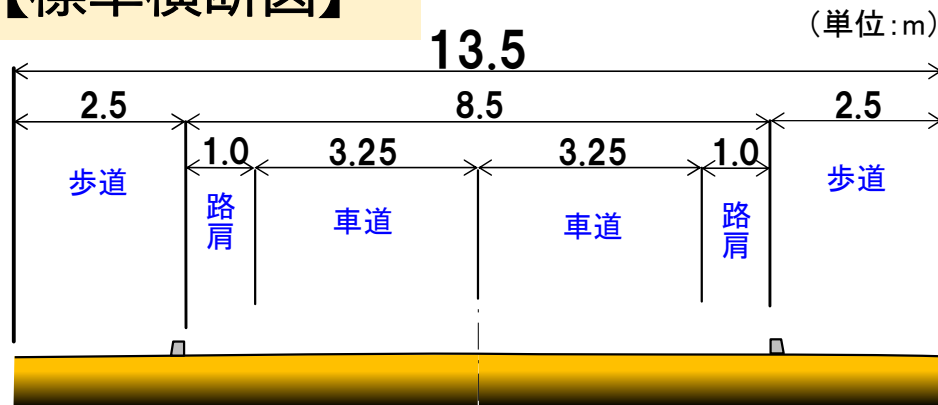
【事業内容】

- ① 総事業費 : 約25億円
- ② 事業期間 : 平成25(2013)年度～令和3(2021)年度
- ③ 総延長 : 2,900m
- ④ 計画交通量 : 12,600台／日（新規事業化時 令和12(2030)年推計値）
- ⑤ 道路区分 : 第3種 第2級
- ⑥ 車線数 : 2車線
- ⑦ 標準幅員 : 13.5m(車道6.5m、路肩1.0m×2、歩道2.5m×2)

【事業の目的・必要性】

- (1) 幹線道路としての走行機能強化
- (2) 安全・安心な通行の確保
- (3) 地域産業の活性化
- (4) 日光杉並木街道の保全

【標準横断図】



【完成写真】

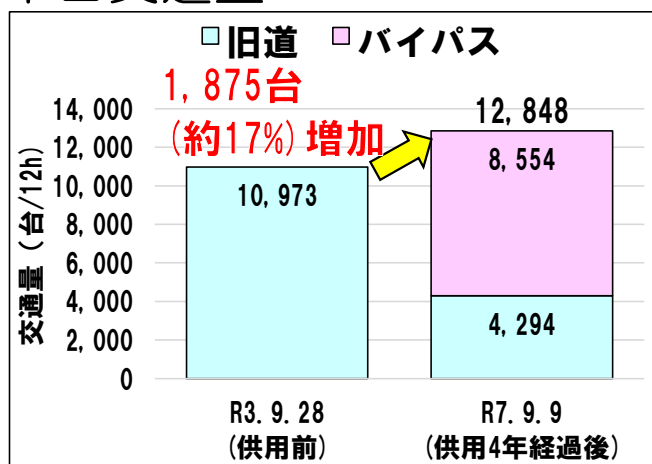


Ⅱ 事業の整備効果等

(1) 幹線道路としての走行機能強化

- ・ 幹線道路としての走行機能が強化され、平日交通量(バイパス+旧道) は 17% 増加
- ・ 道路利用者の約 88% が、開通前と比べて他地域への移動時間が短くなったと感じている。
- ・ 今市消防署へのヒアリングの結果、水無バイパスを利用した救急搬送の現場到着時間は 2～3 分短縮し、「緊急走行しやすく感じている」と回答

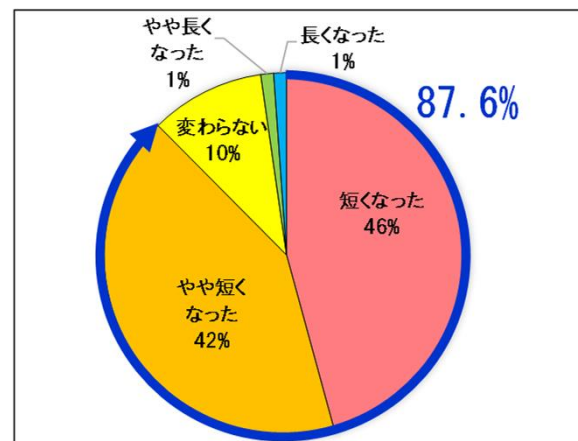
○国道119号（バイパス+旧道）
平日交通量



出典：日光土木事務所調査



○道路利用者アンケート結果
＜開通前と比べた他地域への移動時間＞



○今市消防署へのヒアリング結果

- ・ 水無バイパスを利用した救急搬送件数 : 年間約650件
- ・ 開通前と比べた沿線地域への現場到着時間: 2～3分短縮
- ・ 旧道と比べた水無バイパスの緊急車両の走りやすさ:
「見通しが良くなり、道路幅も広がったため、緊急車両に気づいた一般車両が避けやすくなった。それにより、緊急走行しやすく感じている。」

Ⅱ 事業の整備効果等

(2) 安全・安心な通行の確保

- 旧道において、道路構造令に適合しない区間(曲線半径R=150m未満・車線幅員6.0m未満)がバイパス全線で改善
- 「旧道と比べて安全に通行できる」・「徒歩や自転車で安心して通行できる」と感じる利用者はそれぞれ約9割で利用者の安心感向上に寄与
- バイパス開通前後における年間交通事故発生件数が約50%減少(4.0件/年→2.0件/年)

○道路幅員や線形の比較

項 目	整備前(旧道)	整備後(バイパス)
車道幅員	5.0m (2.5m×2車線)	6.5m (3.25m×2車線)
最小曲線半径 ※規定値(R=150m)	R=50m (規定値外1箇所)	R=560m (規定値外0箇所)
歩道整備率	50.8% (片側or両側歩道)	100% (全線両側歩道)

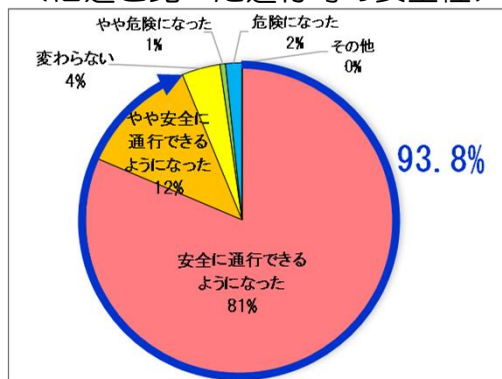
※道路構造令規定値(設計速度50km/h)

旧道の道路構造令に適合しない区間

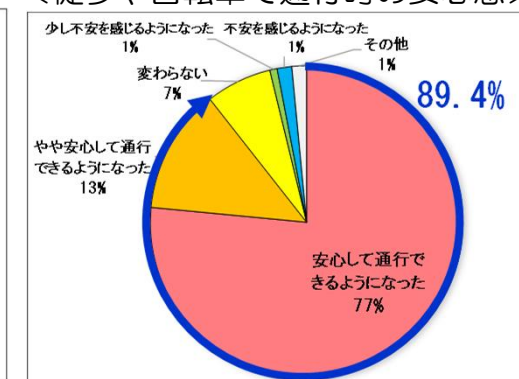


○道路利用者アンケート結果

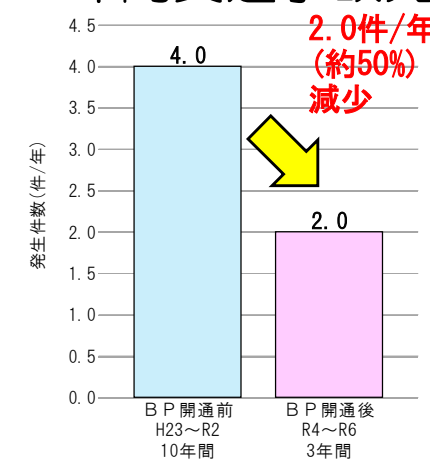
＜旧道と比べた通行時の安全性＞



＜徒歩や自転車で通行時の安心感＞



○年間交通事故発生件数



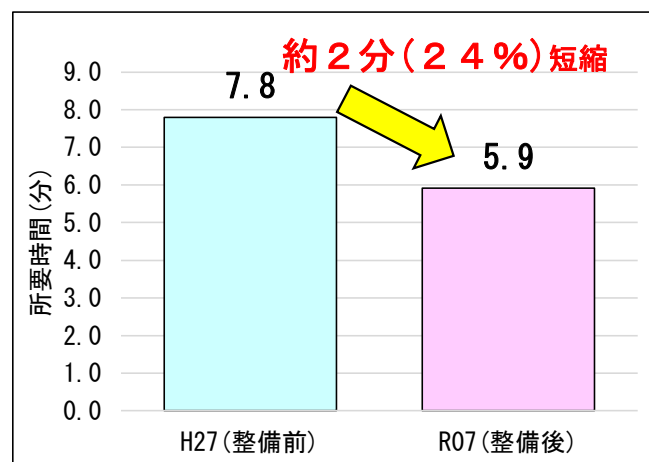
- 集計期間
開通前：H23～R2年(10年間)
開通後：R4～R6年(3年間)
- 集計区間
開通前：国道119号旧道
開通後：国道119号水無B P
- 出典：
今市警察署ヒアリング
交通事故発生位置システム
交通事故統計情報の
オープンデータ(警察庁)

Ⅱ 事業の整備効果等

(3) 地域産業の活性化

- 大沢地区から森友地区への所要時間が約2分（24％）短縮し、日光鬼怒川観光圏へのアクセス向上に寄与
- 幹線道路網の整備に合わせて平成24年に造成を開始した「日光産業団地」は、水無バイパス開通後に「獨協医科大学日光医療センター」が開業（令和5年）し、分譲地（11.2ha）が完売（令和7年）する等、企業誘致を支援
- 店舗や観光施設の来客数が「増加した」と感じる道路利用者は約47％で、「減少した」と感じる道路利用者（約4％）を大きく上回っている

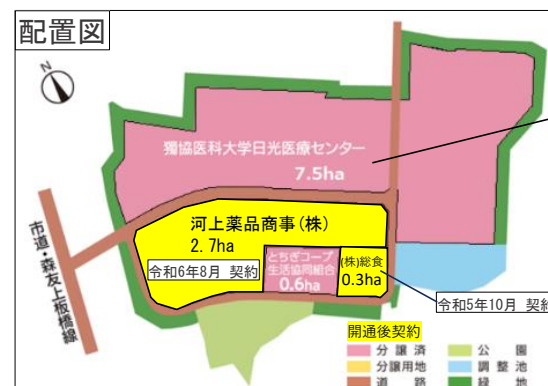
○所要時間の変化 (大沢地区⇒森友地区)



出典：H27(整備前)：全国道路・街路交通情勢調査
R7(整備後)：日光土木事務所調査

集計区間：セブンイレブン日光大沢町店前交差点
～森友北交差点

○日光産業団地

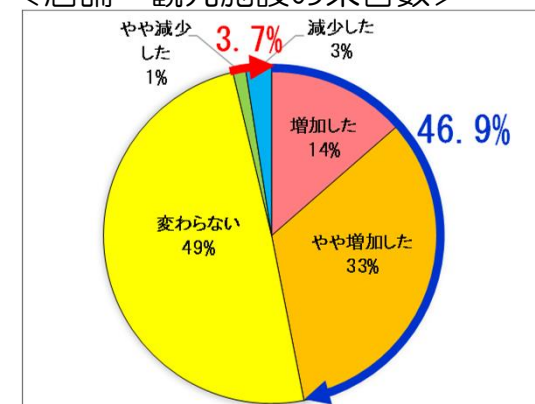


令和7年10月 撮影



獨協医科大学日光医療センター
(7.5ha)：R3.9着工・R5.1移転開院

○道路利用者アンケート結果 ＜店舗・観光施設の来客数＞

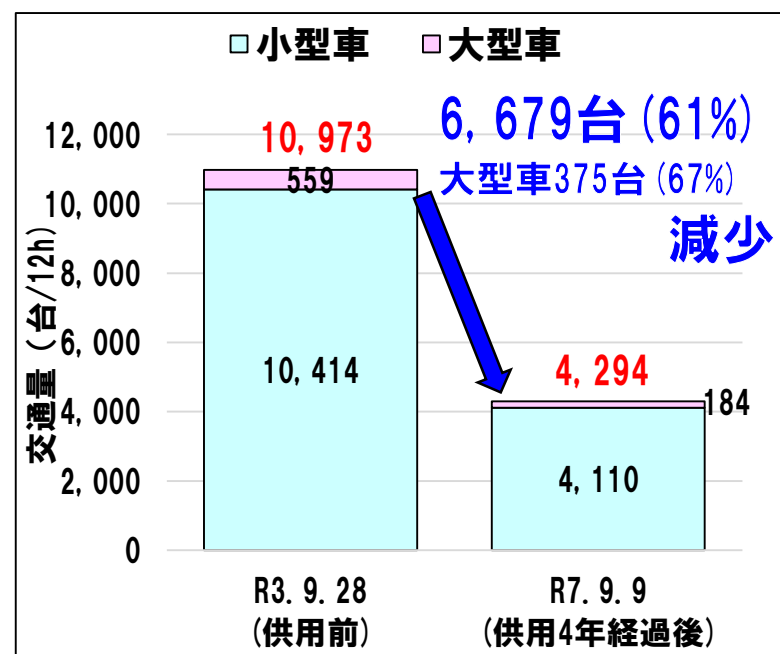


Ⅱ 事業の整備効果等

(4) 日光杉並木街道の保全

- 水無バイパスの開通により、旧道区間の交通量は、約6割減少した。
- 「学識経験者からの意見書」において、「日光杉並木街道の交通量の減少がしたことから、杉並木の生育に影響を与える排気ガスの減少及び振動の低減が図られ、杉並木の保全推進に寄与している」との意見を得られた。
- 道路利用者の約88%が、杉並木の保全が推進されたと感じている。

○旧道交通量の変化



出典：日光土木事務所調査

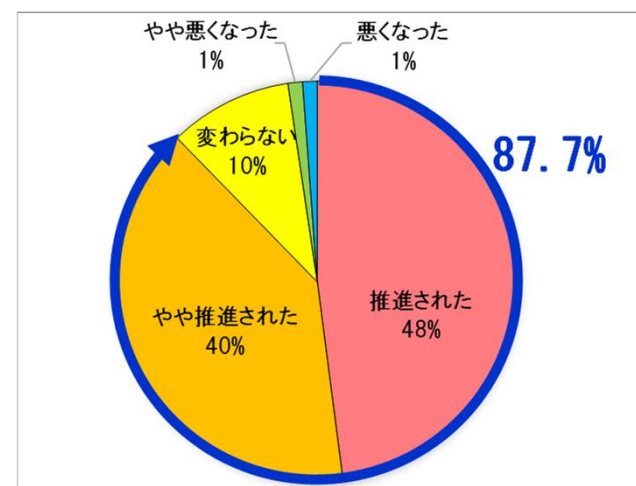
○学識経験者からの意見書

一般国道119号日光市水無バイパスが開通したことで、日光杉並木街道（旧道区間）の交通量が減少したことから、杉並木の生育に影響を与える排気ガスの減少及び振動の低減が図られ、杉並木の保全推進に寄与している。

意見者：栃木県文化財保護審議会 委員

○道路利用者アンケート結果

＜旧道交通量減少に伴う杉並木保全の推進＞



Ⅲ まとめ

(1) 今後の事後評価の必要性

- 走行性の高いバイパスの整備により、国道119号の交通量が増加し、幹線道路としての走行機能が強化された。
- 走行危険箇所がバイパス全線で改善された結果、年間交通事故件数が減少する等、安全・安心で円滑な交通が確保された。
- 大沢地区から森友地区の所要時間が短縮し、製品の輸送効率向上、日光産業団地の分譲地完売など、地域産業の活性化に寄与した。
- 旧道交通量が減少した結果、日光杉並木街道の保全に寄与した。
⇒今後の事後評価の必要性はないと考えている。

(2) 改善措置の必要性

(アンケート調査の自由意見より)

- 水無交差点に右折信号機を付けてほしい。
- 水無バイパスの両脇に何もないので、夜、道路が街灯が無く暗い。

⇒今後の道路利用状況を踏まえながら、地元住民や交通管理者と協議していく。

Ⅲ まとめ

(3) 同種事業への反映

- 「大桑大沢線大沢工区」や、「国道121号板橋バイパス」と一体的な整備を進め、幹線道路ネットワークが一体となって事業効果を発揮できるような効率的・効果的な整備を進めてきたことで、日光産業団地への企業誘致等の地域産業の活性化に貢献できた。
- 本事業の開通を機に、一部区間の恒久的な車両通行規制の実施等により、日光杉並木街道の保全を図ったことで、特別史跡・特別天然記念物の維持保全に寄与することができた。

⇒今後も同種事業を実施する際には、他の事業主体や地域との連携を図りながら、限られた予算の中で事業の効率性を高めて早期に効果を発現できるように努めていく。